
ホモじゃないのに同級生と69した。

ろーさ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ホモじゃないのに同級生と69した。

【Nコード】

N4865C

【作者名】

ろーさ

【あらすじ】

VIPで見つけたスレです。それを張り付けしました。

夏の夜の空気に、何かが狂ってしまったんだ。思い出すと
「ああああああああ」ってなる。

今週の月曜〜火曜にかけて、男友達3人で海に行った。
その夜の話。

メンバーは…

・イケメン

180くらい細身筋肉質 バスケ部

アングロサクソンの血が混じってんじゃないかとおもうような、外人系美形。見た目でモテてるが、本人の中身がやや田舎っぽく、彼女できない。小学校からの友達。

・フツメン

170ないくらい？中肉中背 でもバスケ部

美形ではないが、愛嬌があって女にも人気はある。

彼女は前いたはず。いいやつ。

・俺

177cm 85kg でもピザじゃなくゴリ ラグビー部

フツメンちよい下だと思うが、正直全然モテない。

3人で、安い民宿予約して一泊で海水浴。昼頃に着いて、日が暮れ

るまで海で遊んだ。風呂入って、飯も食って、さあ花火タイム。でも、さすがに男3人では寂しいから、女の子に声をかけて一緒にやるうという話になった。

一応作戦としては、まず俺とフツメンが、声を掛け、立ち止まってくれたらイケメンが現れて、一緒に花火する話をするというプラン。

3人組にしばらくターゲットが狭くなるので、2人組みもOKということで慣れないナンパスタート。

民宿街には、短パンとかミニスカとか、とにかく露出しまくった女の子がすげーうろろしてた。が、さすがにちよつと派手目の目立つ子は、かなりの確率で、ピアスしたDQNにいちちゃん付き。こっちのびびりもあって、ターゲットは自然と、ややおとなしめのコになる。

「ねえねえ！どこから来たの！？」できるだけ明るく声を掛ける。

が、全然場慣れしてない田舎の高校生がいくら頑張ったところで、全く相手にされない。

「熱っちいから。」とか、無視とかそんなんばかり。

途中から、

「最初っからイケメン居たほうがいいだろ」と作戦変更し、3人で

こえかけたり、
「お前ちよつと隠れてろ」と言われて、俺だけ隠れて他の2人で声かけたり色々やってみたけど全然だめだったんだ。

で、結局2時間近くウロウロしても全然だめで、その頃には、当初の目的の花火なんかどうでもよくなって、夏の夜の濃密な空気と自分達の行動、そして、相手にされなかったとはいえ、露出の高い女の子何人にも声を掛けたという興奮で、もう、変に発情した状態になって、じゃあ、女の子は無理っぽいから、部屋かえってオナニーでもするかってことになった。

部屋に戻った俺達、特に俺とイケメンくんが、ヘンなスイッチ入ってる。

いきなり、

「なあ、見せ合いしようぜ。立ってる状態で」 ってなった。

フツメンは、やや引きながらも、笑いながら

「たたねーよ！」 って言っつて、しなびたちんぽ出した。

俺とイケメンは、ビンビンになったちんこ見せあいして、

「お前のほうが太いな」 だの、

「でも長さは俺の方が」 だの、まだこのへんでは笑いながら言っつた。

でもそのうち、俺が本気でオナニーしたくなって、でもさすがに友達の前ではシコレないよなーと思い、布団を出して中が空になった押入れに入ってやることにしたんだ。

んで、押入れに入ってシコシコやりはじめたら、なぜかとびらがスーッとあいた。

「おい！開けるなよ！」って怒ったら、「いや、俺もオナリたくなつて、いいつしょ？暗いし」って、イケメンの声がした。

まあ、確かに真つ暗だからいいかと思って、中に入れた。これが間違いの元だった…。

しばらく押入れの端と端で、シコつてたんだが、そのうちにイケメンが聞いてきた。

「なあ？女に触ってもらったことってある？」

「ないよ。」

「どんな感じなのかな？」

「さあ？気持ちいいんじゃない？」ってな会話。

ちなみに、イケメンはイケメンでも、田舎の高校のかなり本気度高いバスケット部の部員で、全然女慣れしておらず、モテてるのにうまくもっていけずに、彼女居ない状態のやつだ。

そのときの妙な心理状態で、

「完全に隔離されたところじゃなくて…」みたいに思ったのかもな。

で、変に興奮していた俺も、触られることにすごく興味がわき、

「じゃ、お互いに触ってみるか？」って、できるだけ笑いのネタっぽく言ってみた。

イケメンは、

「わはは！面白いな！やってみる？」と、これまたふざけてるのを装って、でも明らかに興味津々なのが伝わってくる感じで答えた。

んでだな、まあお互いに刺激しあったりしはじめたわけだよ。あれ、相手が男でもびっくりするほど気持ちいいのな。

彼女居るやつは、女の子にこんなことしてもらってんのかよ！信じらんねー！って感じで。

んで、興奮しまくって理性を失ったイケメンが、
「なあ、フェラチオってしてもらったことあるか？」って聞いてきた。

もちろんそんな経験ないからそう答えると、

「男に興味あるわけじゃないけど…その…お互いにフェラチオしてみない？」って言われた。

イケメンにフェラチオを誘われた俺、実際俺も興奮して理性を失ってたし、押入れの中のむっとした空気に一段と変な気持ちになつてたし、フェラチオの感触にも興味あったから、

「お、おう。やってみるか？」って、これまたできるだけ余裕あつて笑いながらつてのを装いながら答えた。

まずは俺からイケメンのをくわえた。臭いかと思つてたのだが、極度に興奮してたのと、既に押入れの中で汗やらなんやら臭いこもりまくりの中にいたのと、そもそもラグビー部で、臭いに慣れてるのと、そんなのが幸いして、臭くはなかった。

なんか、太い魚肉ソーセージって感じ。でも表面はあんなざらざらしてなくて、ぬるんとしてた。

くわえた瞬間とか、

「この辺が気持ちいいよな」って思ったとこなめたりすると、イケメンが

「はうつ…」って声出すのが面白かった。

でも、ちょっとしたら舐めるのも飽きて、それに自分のも早く舐めて欲しくて、交代してもらった。

舐めてる間もビンビンの俺のちんこ。ぱくり。うお!!!!!!!!!!ヤバ
い!!!!!!!!!!気持ちよすぎる!!!!!!!!!!

冷静になった今も思うけど、彼女居るやつって、本当に女の子にあ
んなことしてもらってるんだよな?信じられねえ!!!!!!!!!!

もう、この世のものとは思えない快感に身をゆだねる俺。その朦朧
とした意識の中で、更なる興味がわいた。

「なあ、男同士で69ってやつやってみないか?」

今度は俺が誘った。イケメンももはや興奮しきってるのか

「ここまでやったら一緒」思ってるのか、すぐさま

「おう。俺もやりたい」とのってきた。

汗まみれでお互いの体がぬるぬるするのも意に介さずに69の体制
になる俺達。 やっぱり気持ちええええええ!!!!!!!!!!

AVで好きなシチュで、 男が社長とかで、机で取引先に電話とか
してて、まじめな話してるんだけど、机の下ではエロエロ秘書が…
てのあるんだけど、なんかそれに近い感覚かも。

違うことを一所懸命やってるときに、舐められてるのってすごい気
持ちはいい。

この場合、その

「違うこと」「ってのもちんこ舐めてることなんだがwww

で、5分も舐めあつてたかなあ…。

なんかもう完全に時間の感覚とか消えてて、ひたすら快感に身をゆだねる状態だった。

正直、相手が男か女かなんて関係ない状態。

しばらくすると、今までオナニーでは味わったことのない射精感がちんこにあがつてきて、まず俺がイケメンの口の中に大量に発射した。

「うおぷ！」

急に出されたイケメンは、さすがに面食らったみたいで声にならない声を上げた「おい！いくらなんでもいきなり口に出すなよ！」とちよつと怒ってるイケメン。

でもそのあとすぐに、

「…俺もちゃんといかせて、口に出させてくれよ…／＼／＼」ってちよつと照れた口調で…ってなんでツンデレキャラになってんだよおおお！！！！！！！！

男の性として、この時点で急速に冷めていってる俺の興奮。

しかし、ここでこのまま冷静になってしまっただけでやめてしまっただけ、さすがに義理が立たない。

などと、わけの分からない使命感に燃えた俺は、頑張っただけイケメンのちんこをしゃぶり、ちゃんと射精まで導いた。

口の中に大量に出されたザーメンは、さすがに瞬間的に吐き出したけどな。

多分、押入れの床は、汗やカウパーや唾やザーメンでえらいことになってたと思う。

やがて二人とも荒かった息も静まり、冷静になってきて、無言で押入れから出た。
汗だくだった。

部屋では、フツメンが部屋の隅で布団にくるまり、本当に心底汚いものを見る目でこっちを見てた。

俺もイケメンも、我にかえってきて、やってしまったことの
「あああああああああ！！！！！！」さに、地団太を踏み
たい気分だった。

畳に突っ伏して、落ち込んで動けなくなってるイケメン。

死んだ鯖みたいな目で俺達を交互に見てるフツメン。

その中で、かろうじてまだ冷静さを保っていたのは俺だったと思う。
あくまでも、他の2人と比べての話だが。

「なあ。俺も今すごく後悔してるけど、やっちゃったことは仕方ないんだし、別にこれで俺らがホモに目覚めたわけでもないんだし、このこと知ってるのはここにいる3人だけなんだし、なんとかフツメンに黙っててもらえばいいじゃん。な！頼むから黙っててくれるよな！フツメン！」

「当たり前だろ！押し入れからぺちゃぺちゃ聞こえてきて、オナrouとしたよ。でもすぐに、『これは男同士の出してる音なんだ』って思い直してやめたけどな。」とか、笑いでさらっと流す雰囲気を持っていつてくれた。

「ま、俺ら若いから、ワケ分からん事してしまうこともあるよ。今日だって、ちょっとしたタイミングで、俺とどっかが入れ替わってたかもしれないし。」って感じで、忘れて明日は楽しく遊ぼうって。

めっちゃいいやつだ。

で、落ち込みまくりのイケメンにも、
「今日のは若気の至り。忘れようぜ。」

「でも、気持ちはよかったよな。いや、かといって男に走る事は絶対無いけど。」

って2人で話しかけて、何とか重い空気終了。もうかなり夜も更けてたし、普通に寝た。

んで次の日、本当に何もなかったように海で遊びまくり、俺は浜で焼きすぎて真っ赤になったり、イケメンとフツメンは2人で女子大生のお姉さんナンパして仲良くなったり、楽しく過ごした。

ちなみに俺はナンパ系メンバーから外れると言われて外されたのは内緒だ。

帰りの電車もすっげー普通で、むしろ早くも笑いのネタとして、
「お前らまたヘンなことすんなよ。」

「しねーよ」

「あれ？俺はもう一回くらいなら」

「やめろー！！！！！！！！」って感じで、わだかまりもなく帰ってこれた。

めでたしめでたし…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4865c/>

ホモじゃないのに同級生と69した。

2010年11月17日15時59分発行